

## 平成23年度岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程【2月募集】入学試験問題

講座	経済理論・統計、比較経済、政策科学、 経営学、会計学、組織経済学、 地域公共政策コース
専門科目	マクロ経済学

以下の2問とも解答しなさい。なお、問1は解答用紙の1枚目（1、2ページ）を、問2は解答用紙の2枚目（3、4ページ）を用いて解答しなさい。

問1 物価指数に関する以下の設問に答えなさい。

(1) GDPデフレーターと消費者物価指数との相違点を、①財・サービスの対象範囲、②算出方法、の観点からそれぞれ説明しなさい。また、これらの相違点を踏まえて、③両指数が異なった動きをする理由、を述べなさい。

(2) GDPデフレーターと消費者物価指数について、①急激な為替レートの円高、②石油の輸入価格の急騰、という諸要因の変化が与える影響をそれぞれ説明しなさい。

問2 マクロの生産関数が以下のコブ=ダグラス型であるとする。

$$Y = K^{1/3} (TL)^{2/3}$$

ここで、 $Y$ は実質国内総生産GDP、 $K$ は資本ストック、 $L$ は労働、 $T$ は労働にかかる技術である。効率労働単位あたりGDPを $y = Y/(TL)$ 、効率労働単位あたり資本準備率を $k = K/(TL)$ と定義する。下記の設問にすべて答えなさい。各問の解答字数は制限しないが、解答用紙に収まるようにしなさい。

(1) 資本の減耗率は $\delta$ で一定、貯蓄率は $s$ で一定、 $T$ の成長率は $g$ で一定、雇用増加率は $n$ で一定としたとき、これらの記号と $k$ のみを含む資本準備率の増加分( $\Delta k$ )の式を $\Delta k =$ の形で示しなさい。

(2) (1)の結果を用い、さらに図を描きつつ定常状態を説明しなさい。

(3) 本問で定義した生産関数における技術 $T$ はハロッド中立的と呼ばれる。これをヒックス中立的へと変更した場合に、資本が7.5%、労働が1.5%増大したときにGDPが7.3%成長していたとすれば、技術の成長率（全要素生産性）が何%になるか求めなさい。

(4) 参考資料中の下線部（ア）「貧しい熱帯諸国では、高い技術進歩率で成長している成熟した温帯諸国よりも、急成長する強いインセンティブがある」のインセンティブとは何かを、参考資料の文章の意味に沿って、本問のフレームワークも用いて説明しなさい。

(5) 参考資料中の下線部（イ）「こんなことは今も昔もありそうもない」について、何がありそうにないのかを説明した上で、ありそうもないという主張の根拠を文章及び本問のフレームワークを用いて説明しなさい。

(6) 参考資料中の下線部（ウ）「説明にはあまり納得できない」とある。この中で著者が納得できないと指摘する説明とはどのようなものかを、本問のフレームワークを用いて説明しなさい。

(参考資料：ウィリアム・イースタリー『エコノミスト 南の貧困と闘う』，小浜裕久・富田陽子・織井啓介(日本語訳)，東洋経済新報社，2003，77－80 ページ.)

以上